

米国、国立銀行法の制定

「1863年、南北戦争を勝ち抜くために、リンカーンはより多くの通貨を必要とした。彼は、3回目の緑背紙幣を発行するために議会の銀行家勢力に頭を下げ、一つの重要な妥協をした。1863年に彼が署名した「国立銀行法」の制定である。当時のアメリカ各地では銀行、鉄道会社、ホテルなどがおよそ1万種類のさまざまなドル紙幣を発行し、通貨は不安定な形で流通していたが、この法律は、政府が国立銀行（National Bank）に対して統一した標準銀行券の発行許可を与えたものであり、国立銀行が事実上アメリカの国家紙幣を発行することになったのである。いちばん重要なことは、これらの国法銀行がアメリカ政府債を銀行券の発行の準備金に充てたことである。実際、アメリカの貨幣発行と政府債はセットになり、政府は永遠に債務を返済できなくなったのである。」

（『ロスチャイルド、通貨強奪の歴史とそのシナリオ』 p84）

「「国立銀行法」を制定し、施行するにあたって、財務官僚として私が果たした役割は、私の一生涯でもっとも大きなまちがいであった。「国立銀行法」によってもたらされた独占通貨供給の弊害は、アメリカのすべての分野に影響した。あの法令は廃止すべきだった。だが廃止の前に国は、国民と銀行家に分断されてしまった。これはアメリカの歴史上初めてのことであった。」

ー サーマン・チェイス アメリカ財務長官（1861～64）
（『ロスチャイルド、通貨強奪の歴史とそのシナリオ』 p83）